

# 遠隔授業による大学初年次教育と上級科目のグループワーク 演習実践報告

赤澤 紀子<sup>1</sup>

概要：新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、従来の対面式の授業の実施ができず、遠隔方式の授業を多くの大学で実施した。著者の担当する授業では、グループワークを想定した単元があり、急遽、遠隔授業でグループワークを実施することとした。本論文では、Web 会議システムとグループウェアを利用したグループワークについて、準備と実施の様子を基に実践報告を行う。

## Practice report of group work exercises for first-year university education and advanced subjects by remote classroom

NORIKO AKAZAWA<sup>1</sup>

### 1. はじめに

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、2020年4月以降、多くの大学で通常の対面方式の授業実施ができない状況であった。国立情報学研究所にて4月からほぼ毎週開催されている“4月からの大学遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム”[1]にて、遠隔授業等の準備状況の共有や、遠隔授業の実践報告がなされるなど、大学間で情報共有をしながら、各大学にて準備を行い、4月末ごろから多くの大学で、遠隔授業が開始された。著者の担当する授業も、5月より遠隔で実施することになった。担当した2つの講義にて、グループワークを用いた演習を実施した。本論文では、グループワークを用いた演習の準備及び実施状況と履修者のコメントから、完全な遠隔授業でのグループワークを用いた演習の実践報告を行う。

### 2. 大学初年次必須科目でのグループワーク演習

#### 2.1 科目の概要と例年の様子

著者の担当する大学初年次の必須科目「情報」(全15回)の講義には、「ICTを活用した問題解決」の単元があり、標

準スケジュールとして、第5回に導入として、問題解決に関する講義とグループごとのテーマ決め、第13回14回に発表会を設けて、全15回のうち3回分を占めている[2]。例年は対面授業のため、第5回目の導入を実施するときには、クラス内でも友人関係などもでき、グループワークに分かれて活動するときにも、簡単な自己紹介のみですぐにテーマ決めに進むことができる。その後授業では、発表会まで、授業回で「ICTを活用した問題解決」を扱うことはなく、学生らは自分たちで活動日程を決め問題解決を行う。発表会では、グループごとに自分たちが取り組んだ問題解決について発表し質疑応答を行う。更に、グループワーク終了後に提出させる問題解決活動に関するレポートの中で、グループメンバーの貢献度を相互評価させている。

#### 2.2 準備と2020年度の実施

遠隔授業を行うにあたり、昨年度まで使用していたLMS(Learning Management System)のWebClass<sup>\*1</sup>に加えて、グループウェア(Microsoft Teams)が使用できるようになった。そこでグループワークを行うためにグループ専用のチャンネルを用意して、グループごとにチャンネル内で遠隔会議システムを活用することとした。講義は、「ICTを活用した問題解決」回以外は、原則的にオンデマンド形

<sup>1</sup> 電気通信大学  
The University of Electro-Communications

<sup>\*1</sup> <https://www.datapacific.co.jp/webclass/>

表 1 ICT を活用した問題解決活動のスケジュール

活動	実施講義回	
	標準(全 15 回)	2020 年度(全 13 回)
導入	第 5 回	第 3 回
発表準備		第 11 回
ライトニングトーク		第 12 回
発表会 1	第 13 回	
発表会 2	第 14 回	

式としているが、ICT を活用した問題解決回以外の授業時間内でも、グループでの活動ができるように環境を構築した。

標準スケジュールでは第 5 回に導入回を実施することになっているが、学生らの様子から、同級生との会話がなく、気軽に話せる友人がいないとの声もあり、第 3 回に導入回を実施した。グループは、学籍番号順に、4 名構成とした。グループごとの活動は、極力教員は手出しせず、学生主導で実施した。例年の状況から、学生のネットワーク環境や、ICT スキルに差があることがわかっていたため、必ずしも用意したグループウェア上でグループワークを行うことを必須とはしなかった。そのため、グループ内の一部の学生や、グループ全員が他の SNS(LINE など) を利用するグループも見られた。教員は、机間巡視としてグループのチャンネルをまわり、質問等を受けることとした。

遠隔授業のため、学生同士の連絡が取れず発表準備などが進んでいないグループがある可能性を考慮して、発表準備回を設けることにした。さらに、全 15 回の授業が 13 回に短縮されたため、2 回の発表回を設けることがカリキュラム的に困難になったため、例年どおりの発表会は実施せず、発表会と同様の内容となる発表動画の作成をさせることとした。但し、発表会の代わりとして、グループごとのライトニングトークを実施した(表 1)。

学生が作成した発表動画は、例年の発表と比較しても、内容として劣ることはなく、むしろ例年以上に深く考えられた内容になっていた。これは、限られた時間内で集中して皆でグループワークに取り組むことができたからではないかと考える。

グループワーク行うことについて、実施する前は、一度も会ったことのないクラスメイトと本当にグループワークができるのか不安であるとの声もあった。しかし、学生が提出したグループ活動後のレポートからは、遠隔授業でもグループワークができることがわかった、遠隔授業でグループワークができることが自分たちの自信に繋がった、将来教員になるときに役立つと思うとの意見が多数であった。また、この授業以外のことも話せる友人ができたこともよかったとの声も多数あり、「ICT を活用した問題解決」の単元の実施のみではなく、学生の大学生活のスタートに役立つ講義になったと考えられる。

### 3. 学部 3, 4 年生でのグループワーク演習

#### 3.1 科目の概要と例年の様子

著者が担当する理工系大学の学部 3 年生 4 年生が履修する「情報と職業」は、通常の講義とグループワークを活用して、皆の考えを共有することにより、職業と働き方とはどのようなものかを考え、一人ひとりが自分にとっての「情報と職業の観点」を持つことを目標としている。この科目は、高等学校の情報科の教員免許を取得するための必修科目である。しかし、この科目は、教職課程を履修している学生だけでなく、全学向けに開講されている。例年 120 名程度の学生が履修し、全体の 10 %程度が教職課程を履修している学生である。

グループワーク回では、5~10 名程度のグループを作り、各回の課題に取り組み、発表会を実施している。また、グループワーク終了後には、グループのメンバーのグループへの貢献度を相互評価させている。

#### 3.2 準備と 2020 年度の実施

例年通り、授業回後半の数回をグループワーク用の活動回とした。遠隔授業を行うにあたり、例年まで活用してきた LMS(Webclass)に加えて、遠隔会議システム Zoom とグループウェアの G Suite for Education を新たに使用できるようになった。そこで、Zoom のブレイクアウトルームを使用してグループワークを行うこととした。また、Google Classroom に授業用コースを作成し、グループごとに、活動時に意見を出し合うため Google Jamboard、活動後に活動報告を行う Google スライドを提供して、グループ活動を実施するときには、これらに活動記録を残すように促した。

2020 度は、例年より履修者が多く 180 名程度となったため、学籍番号順に 6 名構成のグループを 30 グループ作成した。机間巡視としてブレイクアウトルームをまわったところ、Zoom は会話に使用し、Google Classroom 上で Google Jamboard や Google スライドなどを皆で共有し、皆で一緒にスライドなどを作成する様子を見ることができた(図 1 図 2)。

グループワークを実施する前、学生たちから、「授業に対して温度差があるため、遠隔でのグループワークはきつとうまくできない」との否定的な意見が多数あった。しかし、実際に実施したところ、著者がグループワークとして学生に提示していた時刻までにグループワークが終了することはなく、いつも授業終了時刻(Zoom の終了)を延長する程であった。

例年行っている発表会については、グループ数が多いため 2020 年度は実施せず、グループごとに発表動画を提出させることとした。



図 1 グループごとの共有の例



図 2 Google Jamboard の例

り、遠隔授業で孤独を感じている学生にとっても、これらの授業でのグループワークは役立てたのではないかと感じている。

参考文献

- [1] 国立情報学研究所：4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム (online), 入手先 <<https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/>> (参照 2020.10.02).
- [2] 佐藤 克己, 赤澤 紀子, 飯島 真理ほか：東京学芸大学 全学共通科目「情報」における単元「ICT を活用した問題解決」指導の現状調査, 東京学芸大学紀要, 自然科学系 Vol.67, pp.189 -204(2015)

グループワーク実施後に行ったグループメンバーのグループへの貢献度の相互評価のコメントでは、遠隔授業ではできないと考えていたグループワークを行うことができたとの声が多数あり、学生からも遠隔授業でのグループワークに対して肯定的な意見を得ることができた。

4. まとめ

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、2020年4月から遠隔授業を行う大学が多数あった。著者の担当する授業も遠隔授業を行うこととなった。しかし、例年グループワーク演習を実施しているため、遠隔授業でのグループワーク演習を試みた。著者も履修する学生も大学での遠隔授業は初めてのことであり、更に遠隔でのグループワークも初めてのものであった。そのため、学生らには、皆で授業を作り上げたい旨を説明し、学生らの協力を得ながら、グループワークによる演習を実施した。

実施前は、著者も学生たちも、グループワーク演習が成立するのか不安に感じる部分があったが、実施後はどちらの授業でも、遠隔環境でグループワークができたことに自信を持たせた学生が多くいた。さらに、初年次教育の学生だけでなく、学部3,4年生の学生も、同じグループのメンバーと授業課題についてはもちろんであるが、それ以外の日常生活についての話をしている場面に遭遇することも多々あ